

## ⑪ 公開特許公報 (A) 昭60-71294

⑫ Int. Cl. 1

B 41 M 5/26  
 C 09 B 23/00  
 G 11 B 7/24  
 G 11 C 13/04

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和60年(1985)4月23日

6906-2H  
 6785-4H  
 8421-5D  
 7341-5B

審査請求 未請求 発明の数 1 (全20頁)

⑭ 発明の名称 光記録媒体

⑮ 特願 昭58-181367

⑯ 出願 昭58(1983)9月29日

⑰ 発明者 南波 憲良 東京都中央区日本橋1丁目13番1号 テイーディーケイ株式会社内

⑰ 発明者 浅見 茂 東京都中央区日本橋1丁目13番1号 テイーディーケイ株式会社内

⑰ 発明者 青井 利樹 東京都中央区日本橋1丁目13番1号 テイーディーケイ株式会社内

⑰ 出願人 テイーディーケイ株式会社 東京都中央区日本橋1丁目13番1号

⑰ 代理人 弁理士 石井 陽一

最終頁に続く

## 明細書

## 1. 発明の名称

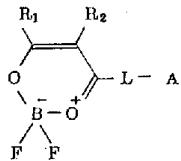
光記録媒体

## 2. 特許請求の範囲

1. 色素の組成物からなる記録層を基体上に有する光記録媒体において、

色素が下記一般式 [I] で示される化合物からなり、色素の組成物中にクエンチヤーが含有されていることを特徴とする光記録媒体。

一般式 [I]



{ 上記一般式 [I] において、

R1 および R2 は、それぞれ、水素原子、または置換もしくは非置換のアルキル基、アリール基もしくはヘテロ環残基を表わすが、

R1 と R2 は、互いに結合して、置換または非置換の縮合環を形成してもよい。

L は  $\text{---CH}=\text{CH---}_n$  または  $\text{---CH}_2\text{---CH}_2\text{---}_n$  を表わし、n は 1, 2 または 3 である。

そして L が  $\text{---CH}=\text{CH---}_n$  であるとき、A は置換または非置換のアリール基、アルキルアミノ基またはジユロリジン環であり、

L が  $\text{---CH}_2\text{---CH}_2\text{---}_n$  であるとき、A は置換または非置換のチツ素含有ヘテロ環 2 個残基である。)

2. 色素の組成物中に樹脂が含まれる特許請求の範囲第 1 項に記載の光記録媒体。

3. クエンチヤーが遷移金属キレート化合物である特許請求の範囲第 1 項または第 2 項に記載の光記録媒体。

4. 記録層に反射層が積層されていない特許請求の範囲第 1 項ないし第 3 項のいずれかに記載の光記録媒体。

5. 基体をとおして書き込みと読み出しを行う特許請求の範囲第 1 項ないし第 4 項のいずれ

かに記載の光記録媒体。

### 3. 発明の詳細な説明

#### I 発明の背景

##### 技術分野

本発明は、光記録媒体、特にヒートモードの光記録媒体に関する。

##### 先行技術

光記録媒体は、媒体と書き込みなし読み出しヘッドが非接触であるので、記録媒体が摩耗劣化しないという特徴をもち、このため、種々の光記録媒体の開発研究が行われている。

このような光記録媒体のうち、暗室による画像処理が不要である等の点で、ヒートモード光記録媒体の開発が活発になつてゐる。

このヒートモードの光記録媒体は、記録光を熱として利用する光記録媒体であり、その1例

として、レーザー等の記録光で媒体の一部を融解、除去等して、ピットと称される小穴を形成して書き込みを行い、このピットにより情報を記録し、このピットを読み出し光で検出して読み出しを行うピット形成タイプのものがある。

このようなピット形成タイプの媒体、特にそのうち装置を小型化できる半導体レーザーを光源とするものは、これまで、Teを主体とする材料を記録層とするものが大半をしめている。

しかし、近年、Te系材料が有害であること、そしてより高感度化する必要があること、より製造コストを安価にする必要があることから、Te系にかえ、色素を主とした有機材料系の記録層を用いる媒体についての提案や報告が増加している。

例えば、He-Ne レーザー用としては、スクワリリウム色素〔特開昭56-46221号、V. B. Jipson and C. R. Jones, J. Vac. Sci. Technol., 18

(1) 105(1981)〕や、金属フタロシアニン色素(特開昭57-82094号、同57-82095号)

などを用いるものがある。

また、金属フタロシアニン色素を半導体レーザー用として使用した例(特開昭56-86795号)もある。

これらは、いずれも色素を蒸着により記録層薄膜としたものであり、媒体製造上、Te系と大差はない。

しかし、色素蒸着膜のレーザーに対する反射率は一般に小さく、反射光量のピットによる変化(減少)によつて読み出し信号をうる、現在行われている通常の方式では大きなS/N比を得ることができない。

また、記録層を担持した透明基体を、記録層が対向するようにして一体化したいわゆるエアーサンドイッチ構造の媒体とし、基体をとおして書き込みおよび読み出しを行うと、書き込み感度を下げずに記録層の保護ができ、かつ記録密度も大きくなる点で有利であるが、このような記録再生方式も、色素蒸着膜では不可能である。これは、通常の透明樹脂製基体では屈折

率がある程度の値をもち(ポリメチルメタクリレートで1.5)、また表面反射率がある程度大きく(同4%)、記録層の基体をとおしての反射率が、例えはポリメチルメタクリレートでは60%程度以下になるため、低い反射率しか示さない記録層では、検出できないからである。

色素蒸着膜からなる記録層の読み出しのS/N比を向上させるためには、通常、基体と記録層との間に、AL等の蒸着反射膜を介在させている。

この場合、蒸着反射膜は、反射率を上げてS/N比を向上させるためのものであり、ピット形成により反射膜が露出して反射率が増大したり、あるいは場合によつては反射膜を除去して反射率を減少させるものであるが、当然のことながら、基体をとおしての記録再生はできない。

同様に、特開昭55-161690号には、IR-132色素(コダツク社製)とポリ酢酸ビニルとからなる記録層、また特開昭57-74845号には、1,1'-ジエチル-2,2'-トリカルボシアニ

ン イオダイドとニトロセルロースとからなる記録層、さらには K. Y. Law, et al., *Appl. Phys. Lett.* 39(9) 718 (1981)には、3', 3'-ジエチル-1,2-アセチルチアテトラカルボシアニンとポリ酢酸ビニルとからなる記録層など、色素と樹脂とからなる記録層を塗布法によつて設層した媒体が開示されている。

しかし、これらの場合にも、基体と記録層との間に反射膜を必要としており、基体裏面側からの記録再生ができない点で、色素蒸着膜の場合と同様の欠点をもつ。

このように、基体をとおしての記録再生が可能であり、Te系材料からなる記録層をもつ媒体との互換性を有機材料系の記録層をもつ媒体で実現するには、有機材料自身が大きな反射率を示す必要がある。

しかし、従来、反射層を積層せずに、有機材料の単層にて高い反射率を示す例はきわめて少ない。

わずかに、バナジルフタロシアニンの蒸着膜

が高反射率を示す旨の報告 [P. Kiuits, et al., *Appl. Phys. Part A* 26(2) 101 (1981), 特開昭55-9703号] されているが、おそらく昇華温度が高いためであろうと思われるが、書き込み感度は低い。

また、チアゾール系やキノリン系等のシアニン色素やメロシアニン色素でも高反射率が示される旨の報告 [山本他, 第27回応用物理学会予稿集 1p-P-9 (1980)] されており、これにもとづく提案が特開昭58-112790号になされているが、これら色素は、特に塗膜として設層したときに、溶剤に対する溶解度が小さく、また結晶化しやすく、さらには読み出し光に対してきわめて不安定でたちちに脱色してしまい、実用に供しえない。

このようを実状に鑑み、本発明者らは、基に、溶剤に対する溶解度が高く、結晶化も少なく、かつ熱的に安定であつて、塗膜の反射率が高いインドリン系のシアニン色素を單層膜として用いる旨を提案している (特願昭57-134397

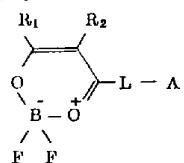
号, 同57-134170号)。

また、インドリン系、あるいはチアゾール系キノリン系、セレナゾール系等の他のシアニン色素においても、長鎖アルキル基を分子中に導入して、溶解性の改善と結晶化の防止がはかられることを提案している (特願昭57-182589号, 同57-177776号等)。

さらに、光安定性をまし、特に読み出し光による脱色(再生劣化)を防止するために、シアニン色素に、クエンチヤーを添加する旨の提案を行つてゐる (特願昭57-166832号, 同57-168048号等)。

ところで、色素の1つとして、下記一般式 [I] で示されるポリメチン色素が知られてゐる (特開昭58-70233号等)。

一般式 [I]



(上記一般式 [I]において、

$R_1$  および  $R_2$  は、それぞれ、水素原子、または置換もしくは非置換のアルキル基、アリール基もしくはヘテロ環残基を表わすが、

$R_1$  と  $R_2$  は、互いに結合して、置換または非置換の縮合環を形成してもよい。

$L$  は  $-CH=CH-$  または  $-OH \neq CH-CH-$  を表わし、 $n$  は 1, 2 または 3 である。

そして  $L$  が  $-CH=CH-$  であるとき、 $A$  は置換または非置換のアリール基、アルキルアミノ基またはジユロリジン環であり、

$L$  が  $-OH \neq CH-CH-$  であるとき、 $A$  は置換または非置換のチツ素含有ヘテロ環 2 仙残基である。)

従つて、このようなポリメチン色素を用いて光記録媒体を構成することが考えられ、このようなポリメチン色素を用いて記録層を形成するときには、反射層を積層することなく、単層膜でも、書き込みと読み出しを基体をとおして行えることが確認された。しかし、書き込

み後の読み出しの際の読み出し光のくりかえし照射によつて、色素が脱色し、読み出しのS/N比が劣化してしまう再生劣化が大きく、実用に耐えないとつう欠点がある。

## II 発明の目的

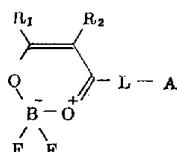
本発明の主たる目的は、再生劣化が改善され、ポリメチン色素を含む記録層を有する光記録媒体を提供することにある。

このようないくつかの目的は、下記の本発明によつて達成される。

すなわち本発明は、色素の組成物からなる記録層を基体上に有する光記録媒体において、

色素が下記一般式〔I〕で示される化合物からなり、色素の組成物中にクエンチヤーが含有されていることを特徴とする光記録媒体である。

一般式〔I〕



上が含有される。

上記一般式〔I〕において、R<sub>1</sub>およびR<sub>2</sub>は同一でも異なつてもよいが、水素原子、それぞれ置換または非置換のアルキル基（例えばメチル、エチル、クロロメチル、トリフルオロメチルなど）、アリール基（例えば、フェニル、クロロフェニルなど）<sup>または</sup>テロ環残基（例えばフリル、チエニルなど）を表わす。

またR<sub>1</sub>とR<sub>2</sub>とは互いに結合して、縮合環を形成してもよい。

縮合環としては、置換または非置換の炭素環（例えば、ベンゼン、ナフタレン、クロルベンゼン、トルエンなど）、あるいは置換または非置換のヘテロ環（例えば、ピラノン、チオピラノン、ピラン、チオピラン、フラパンなど）が好適である。

さらに、Lは、n=1~3の下で+CH=CH<sub>n</sub>または-CH<sub>n</sub>CH-CH<sub>n</sub>である。

そして、Lが+CH=CH<sub>n</sub>であるときには、それぞれAは置換または非置換のアリール基（

〔上記一般式〔I〕において、

R<sub>1</sub>およびR<sub>2</sub>は、それぞれ、水素原子、または置換もしくは非置換のアルキル基、アリール基もしくはヘテロ環残基を表わすが、

R<sub>1</sub>とR<sub>2</sub>は、互いに結合して、置換または非置換の縮合環を形成してもよい。

Lは+CH=CH<sub>n</sub>または-CH<sub>n</sub>CH-CH<sub>n</sub>を表わし、nは1、2または3である。

そしてLが+CH=CH<sub>n</sub>であるとき、Aは置換または非置換のアリール基、アルキルアミノ基またはジユロリジン環であり、

Lが-CH<sub>n</sub>CH-CH<sub>n</sub>であるとき、Aは置換または非置換のチツ素含有ヘテロ環2価残基である。）

## III 発明の具体的構成

以下、本発明の具体的構成について詳細に説明する。

本発明の光記録媒体の記録層中には、上記一般式〔I〕で示されるポリメチン色素の1種以

例えば、フェニル、メトキシフェニル、ジメチルアミノフェニル、ジエチルアミノフェニルなど）、アルキルアミノ基（例えば、ジメチルアミノ、ジエチルアミノなど）<sup>または</sup>ジユロリジンである。

またLが-CH<sub>n</sub>CH-CH<sub>n</sub>であるときには、Aは置換または非置換のチツ素含有ヘテロ環2価残基

例えば下記のヘテロ環の2価残基である。

イミダゾール（例えば、イミダゾール-4-フェニルイミダゾールなど）

インドール（例えば、3H-インドール、3,3-ジメチル-3H-インドール、3,3,5-トリメチル-3H-インドールなど）

ベンゾアゾール

チアゾール〔例えば、4-メチルチアゾール、4-フェニルチアゾール、4,5-ジメチルチアゾール、5-メチルチアゾール、5-フェニルチアゾール、4,5-ジフェニルチアゾール、4-(2-チエニル)チアゾールなど〕

ベンゾチアゾール(例えば、ベンゾチアゾール、4-クロロベンゾチアゾール、5-クロロベンゾチアゾール、6-クロロベンゾチアゾール、7-クロロベンゾチアゾール、4-メチルベンゾチアゾール、5-メチルベンゾチアゾール、6-メチルベンゾチアゾール、5-ブロモベンゾチアゾール、6-ブロモベンゾチアゾール、4-フェニルベンゾチアゾール、5-フェニルベンゾチアゾール、4-メトキシベンゾチアゾール、5-メトキシベンゾチアゾール、6-メトキシベンゾチアゾール、5-ヨードベンゾチアゾール、6-ヨードベンゾチアゾール、4-エトキシベンゾチアゾール、5-エトキシベンゾチアゾール、テトラヒドロベンゾチアゾール、5,6-ジメトキシベンゾチアゾール、5,6-ジオキシメチレンベンゾチアゾール、5-ヒドロキシベンゾチアゾール、6-ヒドロキシベンゾチアゾールなど)

ナフトチアゾール(例えば、ナフト[1,2-d]チアゾール、ナフト[2,1-d]チア

ゾール、4-フェニルセレナゾールなど)

ベンゾセレナゾール(例えば、ベンゾセレナゾール、5-クロロベンゾセレナゾール、5-メトキシベンゾセレナゾール、5-ヒドロキシベンゾセレナゾール、テトラヒドロベンゾセレナゾールなど)

ナフトセレナゾール(例えば、ナフト[1,2-d]セレナゾール、ナフト[2,1-d]セレナゾールなど)

チアゾリン(例えば、チアゾリン、4-メチルチアゾリンなど)

キノリン(例えば、8-メチル、5-メチル、7-メチル、6-クロロ、8-クロロ、6-メトキシ、6-エトキシ、6-ヒドロキシ、8-ヒドロキシ等によつて置換されてもよい2-キノリン；6-メトキシ、7-メチル、8-メチル等で置換されてもよい4-キノリン；1-イソキノリン；3,4-ジヒドロイソキノリンなど)

ピリジン(例えば5-メチルなどで置換され

ゾール、ナフト[2,3-d]チアゾール、5-メトキシナフト[2,1-d]チアゾール、5-エトキシナフト[2,1-d]チアゾール、8-メトキシナフト[1,2-d]チアゾール、7-メトキシナフト[1,2-d]チアゾールなど)

チアナフテノチアゾール(例えば、4'-メトキシチアナフテノ-7',6'-4,5-チアゾールなど)

オキサゾール(例えば、4-メチルオキサゾール、5-メチルオキサゾール、4-フェニルオキサゾール、4,5-ジフェニルオキサゾール、4-エチルオキサゾール、4,5-ジメチルオキサゾール、5-フェニルオキサゾールなど)

ベンゾオキサゾール

ナフトオキサゾール(例えば、ナフト[1,2-d]オキサゾール、ナフト[2,1-d]オキサゾールなど)

セレナゾール(例えば、4-メチルセレナゾ

ゾール、4-ピリジン；4-ピリジンなど)

ベンゾイミダゾール(例えば、1-エチルベンゾイミダゾール、1-フェニルベンゾイミダゾールなど)

ベンゾインドール

アクリジン

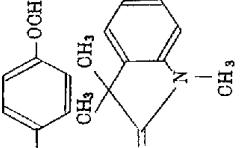
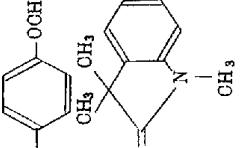
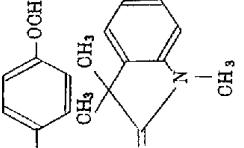
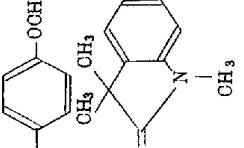
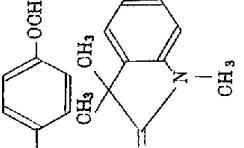
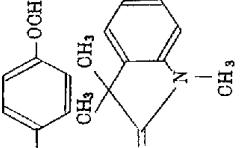
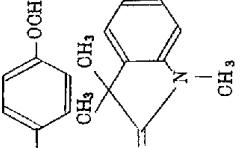
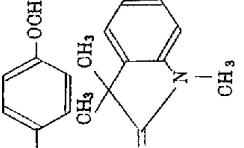
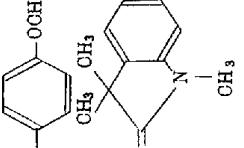
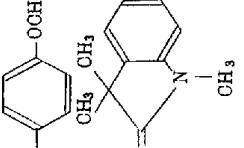
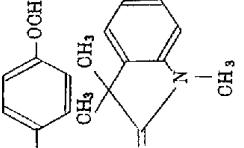
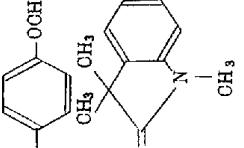
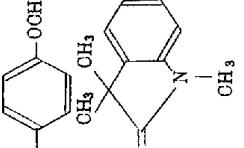
イミダゾキノキザリン

イミダゾキノリン

チアゾロキノン

これら上記一般式[I]で示されるポリメチル色素は、例えば、J.A.ファンアレンおよびG.A.レイノルズ「ジャーナル オブ ヘテロサイクリック ケミストリー」第6巻第29ページ1969年に従い合成される。

次に、上記一般式[I]で示されるポリメチル色素の光体例を舉げる。

D 1 0	<chem>C6H5</chem>	H	-CH=OH-		R <sub>1</sub>	R <sub>2</sub>	L
D 1 1	"	"	-CH=OH-CH=		D 1	結合ベンゼン環	-CH=CH-
D 1 2	結合ベンゼン環		-CH=OH-		D 2	"	"
D 1 3	結合ベンゼン環		-CH=OH-CH=		D 3	"	-OH=CH-CH=
D 1 4	結合ベンゼン環		-CH=OH-		D 4		-CH=CH-
D 1 5	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 5		-CH=CH-CH=
D 1 6	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 6	"	-OH=CH-
D 1 7	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 7	"	-CH=CH-
D 1 8	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 8	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	H
D 1 9	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 9	"	"
D 2 0	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 10	"	-N(C <sub>6</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>2</sub>
D 2 1	結合ベンゼン環		-CH=CH-CH=		D 11	"	"

さらに、このような色素は、通常、単量体の形で記録層中に含有させられるが、必要に応じ、重合体の形で含有させられてもよい。

この場合、重合体は、色素の2分子以上を有するものであつて、これら色素の縮合物であつてもよい。

例えば、-OH, -COOH, -SO<sub>3</sub>H等の官能基の1種以上を、1個または2個以上有する上記色素の単独ないし共縮合物。

あるいはこれらと、ジアルコール、ジカルボン酸ないしその塩化物、ジアミン、ジないしトリイソシアナート、ジエポキシ化合物、酸無水物、ジヒドラジド、ジイミノカルボナート等の共縮合成分や他の色素との共縮合物がある。

あるいは、上記の官能基を有する色素を、単独で、あるいはスペーサー成分や他の色素とともに、金属系架橋剤で架橋したものであつてもよい。

この場合、金属系架橋剤としては、

チタン、ジルコン、アルミニウム等のアルコ

キシド、

チタン、ジルコン、アルミニウム等のキレート(例えば、 $\alpha$ -ジケトン、ケトエステル、ヒドロキシカルボン酸ないしそのエステル、ケトアルコール、アミノアルコール、エノール性活性水素化合物等を配位子とするもの)、

チタン、ジルコン、アルミニウム等のアシレートなどがある。

さらには、-OH基、-COOR基(ここに、Rは、置換ないし非置換のアルキル基ないしアリール基である)のうちの少なくとも1つを有する色素の1種または2種以上、あるいはこれと他のスペーサー成分ないし他の色素とをエステル交換反応によつて、-COO-基によつて結合したものも使用可能である。

この場合、エステル交換反応は、チタン、ジルコン、アルミニウム等のアルコキシドを触媒とすることが好ましい。

加えて、上記の色素は、樹脂と結合したもの

であつてもよい。

このような場合には、所定の基を有する樹脂を用い、上記の重合体の場合に準じ、樹脂の側鎖に、縮合反応やエステル交換反応によつたり、架橋によつたりして、必要に応じスペーサー成分等を介し、色素を連結する。

このような色素は、本発明の効果をそこなわない範囲で、他の色素と組み合わせて記録層を形成してもよい。

記録層中には、必要に応じ、樹脂が含まれていてもよい。

用いる樹脂としては、自己酸化性、解重合性ないし熱可塑性樹脂が好適である。

これらのうち、特に好適に用いることができる樹脂には、以下のようなものがある。

### I) ポリオレフィン

ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリ4-メチルペンタエン-1など。

### II) ポリオレフィン共重合体

例えば、エチレン-酢酸ビニル共重合体、エチレン-アクリル酸エステル共重合体、エチレン-アクリル酸共重合体、エチレン-プロピレン共重合体、エチレン-ブテン-1共重合体、エチレン-無水マレイン酸共重合体、エチレン-プロピレンターポリマー(EPT)など。

この場合、コモノマーの重合比は任意のものとすることができます。

### III) 塩化ビニル共重合体

例えば、酢酸ビニル-塩化ビニル共重合体、塩化ビニル-塩化ビニリデン共重合体、

塩化ビニル-無水マレイン酸共重合体、アクリル酸エステルないしメタアクリル酸エステルと塩化ビニルとの共重合体、アクリロニトリル-塩化ビニル共重合体、塩化ビニルエーテル共重合体、エチレンないしプロピレン-塩化ビニル共重合体、エチレン-酢酸ビニル共重合体に塩化ビニルをグラフト重合したものなど。

この場合、共重合比は任意のものとすることができる。

#### IV) 塩化ビニリデン共重合体

塩化ビニリデン-塩化ビニル共重合体、塩化ビニリデン-塩化ビニル-アクリロニトリル共重合体、塩化ビニリデン-プロタジエン-ハロゲン化ビニル共重合体など。

この場合、共重合比は、任意のものとすることができる。

#### V) ポリスチレン

#### VI) スチレン共重合体

例えば、スチレン-アクリロニトリル共

重合体(A-S樹脂)、スチレン-アクリロニトリル-ブタジエン共重合体(A-B-S樹脂)、スチレン-無水マレイン酸共重合体(SMA樹脂)、スチレン-アクリル酸エステル-アクリルアミド共重合体、スチレン-ブタジエン共重合体(SBR)、スチレン-塩化ビニリデン共重合体、スチレン-メチルメタアクリレート共重合体など。

この場合、共重合比は任意のものとすることができる。

#### VII) スチレン型重合体

例えば、 $\alpha$ -メチルスチレン、 $\beta$ -メチルスチレン、2,5-ジクロルスチレン、 $\alpha$ , $\beta$ -ビニルナフタレン、 $\alpha$ -ビニルビリジン、アセナフテン、ビニルアントラゼンなど、あるいはこれらの共重合体、例えば、 $\alpha$ -メチルスチレンとメタクリル酸エステルとの共重合体。

#### VIII) クマロン-インデン樹脂

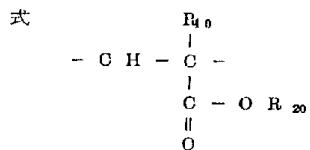
クマロン-インデン-スチレンの共重合体。

#### IX) テルペン樹脂ないしピコライト

例えば、 $\alpha$ -ピネンから得られるリモネンの重合体であるテルペン樹脂や、 $\beta$ -ピネンから得られるピコライト。

#### X) アクリル樹脂

特に下記式で示される原子団を含むものが好ましい。



上記式において、 $R_{10}$ は、水素原子またはアルキル基を表わし、 $R_{20}$ は、置換または非置換のアルキル基を表わす。この場合、上記式において、 $R_{10}$ は、水素原子または炭素原子数1~4の低級アルキル基、特に水素原子またはメチル基であることが好ましい。

また、 $R_{20}$ は、置換、非置換いずれのアルキル基であつてもよいが、アルキル基の炭

素原子数は1~8であることが好ましく、また、 $R_{20}$ が置換アルキル基であるときには、アルキル基を置換する置換基は、水酸基、ハロゲン原子またはアミノ基(特に、ジアルキルアミノ基)であることが好ましい。

このような上記式で示される原子団は、他のくりかえし原子団とともに、共重合体を形成して各種アクリル樹脂を構成してもよいが、通常は、上記式で示される原子団の1種または2種以上をくりかえし単位とする単独重合体または共重合体を形成してアクリル樹脂を構成することになる。

#### XII) ポリアクリロニトリル

#### XIII) アクリロニトリル共重合体

例えば、アクリロニトリル-酢酸ビニル共重合体、アクリロニトリル-塩化ビニル共重合体、アクリロニトリル-スチレン共重合体、アクリロニトリル-塩化ビニリデン共重合体、アクリロニトリル-ビニルビ

リジン共重合体、アクリロニトリル-メタクリル酸メチル共重合体、アクリロニトリル-ブタジエン共重合体、アクリロニトリル-アクリル酸ブチル共重合体など。

この場合、共重合比は任意のものとすることができる。

XIII) ダイアセトンアクリルアミドポリマー-アクリロニトリルにアセトンを作用させたダイアセトンアクリルアミドポリマー。

XIV) ポリ酢酸ビニル

XV) 酢酸ビニル共重合体

例えば、アクリル酸エステル、ビニルエーテル、エチレン、塩化ビニル等との共重合体など。

共重合比は任意のものであつてよい。

XVI) ポリビニルエーテル

例えば、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルエチルエーテル、ポリビニルブチルエーテルなど。

XVII) ポリアミド

は、特に好適である。

さらに、例えば、無水フタル酸とグリセリンとの縮合物であるグリプタル樹脂を、脂肪酸、天然樹脂等でエステル化変性した変性グリプタル樹脂等も好適に使用される。

XVIII) ポリビニルアセタール系樹脂

ポリビニルアルコールを、アセタール化して得られるポリビニルホルマール、ポリビニルアセタール系樹脂はいずれも好適に使用される。

この場合、ポリビニルアセタール系樹脂のアセタール化度は任意のものとすることができる。

XIX) ポリウレタン樹脂

ウレタン結合をもつ熱可塑性ポリウレタン樹脂。

特に、グリコール類とジイソシアナート類との縮合によつて得られるポリウレタン樹脂、とりわけ、アルキレングリコールとアルキレンジイソシアナートとの縮合によ

この場合、ポリアミドとしては、ナイロン6、ナイロン6-6、ナイロン6-10、ナイロン6-12、ナイロン9、ナイロン11、ナイロン12、ナイロン13等の通常のホモナイロンの他、ナイロン6/6-6/6-10、ナイロン6/6-6/12、ナイロン6/6-6/11等の重合体や、場合によつては変性ナイロンであつてもよい。

XVIII) ポリエステル

例えば、シニウ酸、コハク酸、マレイン酸、アジピン酸、セバステン酸等の脂肪族二塩基酸、あるいはインフタル酸、テレフタル酸などの芳香族二塩基酸などの各種二塩基酸と、エチレングリコール、テトラメチレングリコール、ヘキサメチレングリコール等のグリコール類との縮合物や、共縮合物が好適である。

そして、これらのうちでは、特に脂肪族二塩基酸とグリコール類との縮合物や、グリコール類と脂肪族二塩基酸との共縮合物

つて得られるポリウレタン樹脂が好適である。

XX) ポリエーテル

ステレンホルマリン樹脂、環状アセタールの開環重合物、ポリエチレンオキサイドおよびグリコール、ポリプロピレンオキサイドおよびグリコール、プロピレンオキサイド-エチレンオキサイド共重合体、ポリエニレンオキサイドなど。

XXI) セルロース誘導体

例えば、ニトロセルロース、アセチルセルロース、エチルセルロース、アセチルブチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、メチルセルロース、エチルヒドロキシエチルセルロースなど、セルロースの各種エステル、エーテルないしこれらの混合体。

XXII) ポリカーボネート

例えば、ポリジオキシジフェニルメタンカーボネート、ジオキシジフェニルプロパ

ンカーポネット等の各種ポリカーポネット。

XXIV) アイオノマー

メタクリル酸、アクリル酸などのNa, Li, Zn, Mg塩など。

XXV) ケトン樹脂

例えば、シクロヘキサンやアセトフェノン等の環状ケトンとホルムアルデヒドとの縮合物。

XXVI) キシレン樹脂

例えば、m-キシレンまたはメチレンとホルマリンとの縮合物、あるいはその変性体。

XXVII) 石油樹脂

C<sub>6</sub>系、C<sub>8</sub>系、C<sub>5</sub>-C<sub>9</sub>共重合系、ジシクロペニタジエン系、あるいは、これらの共重合体ないし変性体など。

XXVIII) 上記Ⅰ)~XXVII)の2種以上のブレンド体、またはその他の熱可塑性樹脂とのブレンド体。

なお、自己酸化性、熱可塑性等の樹脂の分子量

等は、種々のものであつてよい。

このような樹脂と、前記の色素とは、通常、重量比で1対0.1~100の広範な量比にて設層される。

このような記録層中には、クエンチャーが、含有される。

これにより、読み出し光のくりかえし照射によるS/N比の再生劣化が減少する。また、明室保存による耐光性が向上する。

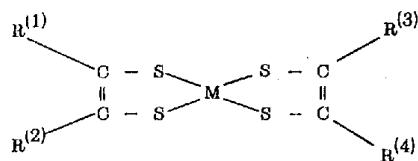
クエンチャーとしては、種々のものを用いることができるが、特に、再生劣化が減少するとと、そして色素結合樹脂との相溶性が良好であることをどから、遷移金属キレート化合物であることが好ましい。この場合、中心金属としては、Ni, Co, Cu, Mn, Pd, Pt等が好ましく、特に、下記の化合物が好適である。

1) アセチルアセトナートキレート系

Q 1 - 1 Ni(II)アセチルアセトナート  
Q 1 - 2 Cu(II)アセチルアセトナート  
Q 1 - 3 Mn(III)アセチルアセトナート

Q 1 - 4 Co(II)アセチルアセトナート

2) 下記式で示されるビスジチオ-α-ジケトン系



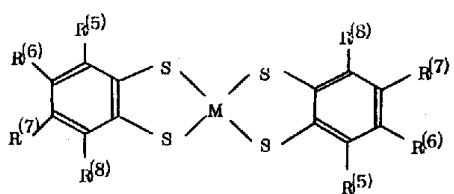
ここで、R<sup>(1)</sup>~R<sup>(4)</sup>は、置換ないし非置換のアルキル基またはアリール基を表わし、Mは、Ni, Co, Cu, Pd, Pt等の遷移金属原子を表わす。

この場合、Mは-電荷をもち、4級アンモニウムイオン等のカチオン(Cat)と塩を形成してもよい。

なお、以下の記載において、pHはフェニル基、φは1,4-フェニレン基、φは1,2-フェニレン基、benzは環上にてとなりあう基が互いに結合して縮合ベンゼン環を形成することを表わすものである。

R	Cat	R			
		(1)	(2)	(3)	(4)
Q 2 - 1	pH	pH	pH	Ni	Ni
Q 2 - 2	CH <sub>3</sub> CO	OH <sub>3</sub> CO	CH <sub>3</sub> CO	Ni	Ni
Q 2 - 3	φN(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>2</sub>	pH	φN(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>2</sub>	pH	Ni
Q 2 - 4	φN(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	pH	φN(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	pH	Ni
Q 2 - 5	pH	pH	pH	Ni	N <sup>+(C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>)<sub>2</sub></sup>

## 3) 下記式で示されるビスフェニルジチオール系



ここに、R(5) および R(6) は、水素またはメチル基、エチル基などのアルキル基、O<sub>2</sub>などのハロゲン原子、あるいはジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基などのアミノ基、等を表わし。

M は、Ni、Co、Cu、Pd、Pt 等の遷移金属原子を表わす。

また、上記構造の M は - 電荷をもつて、4 群アンモニウムイオン等のカチオン (Cat) と塩を形成してもよく、さらには M の上下には、さらに他の配位子が結合していてもよい。

このようなものとしては、下記のものがある。

R(5)	R(6)		R(7)		R(8)		Cat
	M	R	M	R	M	R	
Q3-1-1	H	CH <sub>3</sub>	CH <sub>3</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-2	H	CH <sub>3</sub>	CH <sub>3</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (CH <sub>3</sub> ) <sub>3</sub> C <sub>16</sub> H <sub>33</sub>
Q3-1-3	CO	CO	CO	CO	CO	Ni	N <sup>+</sup> (CH <sub>3</sub> ) <sub>3</sub> C <sub>16</sub> H <sub>33</sub>
Q3-1-4	H	CO	CO	CO	CO	Ni	N <sup>+</sup> (CH <sub>3</sub> ) <sub>3</sub> C <sub>16</sub> H <sub>33</sub>
Q3-1-5	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-6	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-O <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-7	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	CH <sub>3</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (C <sub>8</sub> H <sub>17</sub> )(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>3</sub>
Q3-1-8	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-9	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	CO	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> )(CH <sub>3</sub> ) <sub>3</sub>
Q3-2-0	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>

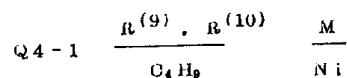
R(5)	R(6)		R(7)		R(8)		Cat
	M	R	M	R	M	R	
Q3-1-1	H	CH <sub>3</sub>	CH <sub>3</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (O <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-2	H	CH <sub>3</sub>	CH <sub>3</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-3	CO	CO	CO	CO	CO	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-4	H	CO	CO	CO	CO	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-5	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-6	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-O <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-7	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	CH <sub>3</sub>	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (C <sub>8</sub> H <sub>17</sub> )(C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> ) <sub>3</sub>
Q3-1-8	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>
Q3-1-9	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	CO	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (C <sub>2</sub> H <sub>5</sub> )(CH <sub>3</sub> ) <sub>3</sub>
Q3-2-0	H	N(CH <sub>3</sub> ) <sub>2</sub>	H	H	H	Ni	N <sup>+</sup> (n-C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> ) <sub>4</sub>

この他、特開昭50-45027号や昭和58年9月5日付の特許願に記載したものな  
ど。

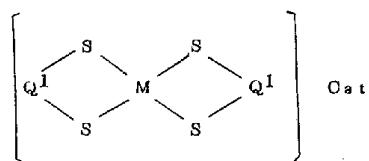
## 4) 下記式で示されるジチオカルバミン酸キレート系



ここに、R<sup>(9)</sup> および R<sup>(10)</sup> はアルキル基を表わす。また、M は Ni、Co、Cu、Pd、Pt 等の遷移金属原子を表わす。



## 5) 下記式で示される化合物



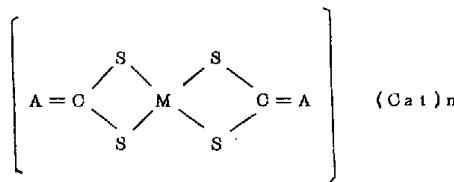
ここで、Mは、遷移金属原子を表わし。  
 $Q^1$ は、 $-C=O$  ( $Q^{11}$ ) または  $-O-CN$  ( $Q^{12}$ ) を表わ  
 し。  
 $-C=O$                      $-O-CN$

Catは、カチオンを表わす。

	<u>M</u>	<u>Q</u>	<u>Cat</u>
Q5-1	Ni	$Q^{12}$	$2C_{16}H_{33}N^+ (CH_3)_3$
Q5-2	Ni	$Q^{12}$	$2(C_4H_9)_4N^+$
Q5-3	Co	$Q^{12}$	$2(C_4H_9)_4N^+$
Q5-4	Cu	$Q^{12}$	$2(C_4H_9)_4N^+$
Q5-5	Pd	$Q^{12}$	$2(C_4H_9)_4N^+$

この他、特願昭58-125654号に記載したもの。

#### 6) 下記式で示される化合物



ここで、  
 Mは、遷移金属原子を表わし。

$A = S$  ,  $O \begin{cases} R^{(11)} \\ R^{(12)} \end{cases}$  または  $C \begin{cases} R^2 \\ Q^2 \end{cases}$  を表わ  
 し。

$R^{(11)}$  および  $R^{(12)}$  は、それぞれ、 $CN$  ,  $CO$   
 $R^{(13)}$  ,  $COOR^{(14)}$  ,  $CNHR^{(15)}$   $R^{(16)}$  または  
 $SO_2R^{(17)}$  を表わし。

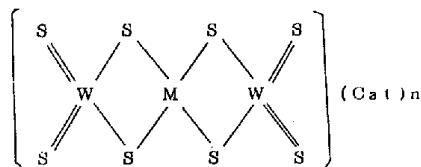
$R^{(13)}$  ~  $R^{(17)}$  は、それぞれ、水素原子ま  
 たは置換もしくは非置換のアルキル基もしく  
 はアリール基を表わし。

$Q^2$ は、5員または6員環を形成するのに必  
 要な原子群を表わし。

Catは、カチオンを表わし。  
 nは1または2である。

この他、特願昭58-127074号に記  
 載したもの。

#### 7) 下記式で示される化合物



ここで、Mは、遷移金属原子を表わし。  
 Catは、カチオンを表わし。  
 nは1または2である。

	<u>A</u>	<u>Q</u>	<u>Cat</u>
	S	$2(n-C_4H_9)_4N$	
		$2[n-C_{16}H_{33}(CH_3)_3N]$	
		$2Na$	
		$2[(n-C_4H_9)_4N]$	
		$2[(n-C_{10}H_{21}O(CH_2)_3)_3N]$	
		$2[(n-C_{16}H_{33}(CH_3)_3N]$	
Q6-1	Ni	$S-C(CN)_2$	
Q6-2	Ni	$Ni-C(CN)_2$	
Q6-3	Ni	$Ni-C(CN)_2$	
Q6-4	Ni	$Ni-COCONH_2$	
Q6-5	Ni	$Ni-COCONH_2$	
Q6-6	Ni	$Ni-COCONH_2$	

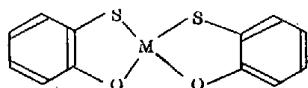
この他、特願昭58-127075号に記  
 載したもの。

#### 8) ビスフェニルチオール系

Q8-1 Ni-ビス(オクチルフェニル)サルファイド

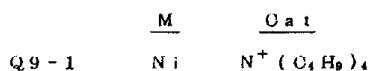
#### 9) 下記式で示されるチオカテコールキレート

系

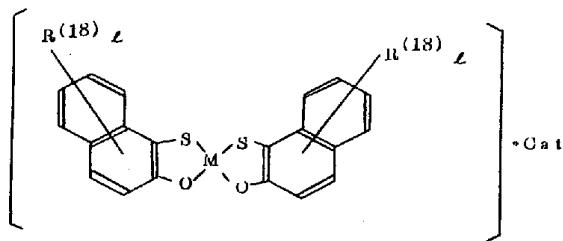


ここに、Mは、Ni, Co, Cu, Pd, Pt等の遷移金属原子を表わす。

また、Mは-電荷をもち、カチオン(O<sup>+</sup>)と塩を形成していてもよく、ベンゼン環は置換基を有していてもよい。



10) 下記式で示される化合物



ここに、R<sup>(18)</sup>は、1面の基を表わし、

これは、0~6であり、

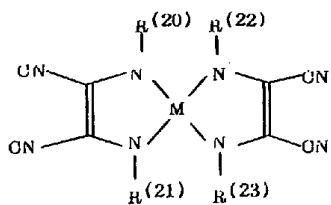
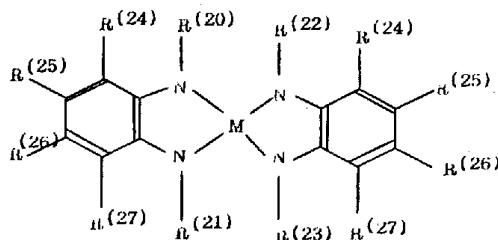
Mは、遷移金属原子を表わし、

Catは、カチオンを表わす。

	<u>M</u>	<u>R<sup>(18)</sup></u>	<u>L</u>	<u>Cat</u>
Q 10 - 1	Ni	H	0	$N(n-C_6H_5)_4$
Q 10 - 2	Ni	CH <sub>3</sub>	1	$N(n-C_6H_5)_4$

この他、特願昭58-143533号に記載したもの。

11) 下記の両式で示される化合物



ここに、上記一般式[I]および[II]において、

R<sup>(20)</sup>, R<sup>(21)</sup>, R<sup>(22)</sup>およびR<sup>(23)</sup>は、それ

ぞれ水素原子または1面の基を表わし、

R<sup>(24)</sup>, R<sup>(25)</sup>, R<sup>(26)</sup>およびR<sup>(27)</sup>は、水素

原子または1面の基を表わすが、R<sup>(24)</sup>と

R<sup>(25)</sup>, R<sup>(25)</sup>とR<sup>(26)</sup>, R<sup>(26)</sup>とR<sup>(27)</sup>は、互

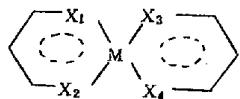
に結合して6員環を形成してもよい。

また、Mは、遷移金属原子を表わす。

式	<u>R<sup>(20)</sup></u>	<u>R<sup>(21)</sup></u>	<u>R<sup>(22)</sup></u>	<u>R<sup>(23)</sup></u>	<u>R<sup>(24)</sup></u>	<u>R<sup>(25)</sup></u>	<u>R<sup>(26)</sup></u>	<u>R<sup>(27)</sup></u>	<u>M</u>
Q 11 - 1 [I]	$n-C_6H_5$	H	$n-C_6H_5$	H	H	H	H	H	Ni
Q 11 - 2 [I]	$C_2H_5COO$	Ni							

この他、特願昭58-145294号に記載したもの。

## 12) 下記式で示される化合物

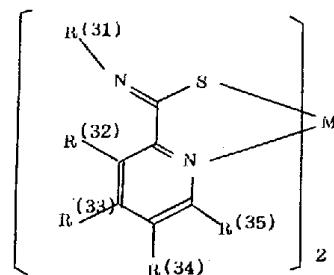


ここに、Mは、Pt、NiまたはPdを表わし、  
X<sub>1</sub>、X<sub>2</sub>、X<sub>3</sub>、X<sub>4</sub>は、それぞれ、OまたはS  
を表わす。

	<u>M</u>	<u>X<sub>1</sub></u>	<u>X<sub>2</sub></u>	<u>X<sub>3</sub></u>	<u>X<sub>4</sub></u>
Q12-1	Ni	O	O	O	O
Q12-2	Ni	S	S	S	S

この他、特願昭58-145295号に記載したもの。

## 13) 下記式で示される化合物



ここに、R(31)は、置換もしくは非置換のアルキル基またはアリール基であり。

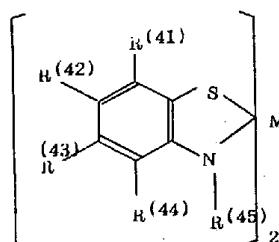
R(32)、R(33)、R(34)およびR(35)は、水素原子または1仙の基を表わすが、R(32)とR(33)、R(33)とR(34)、R(34)とR(35)は、互いに結合して6員環を形成してもよい。

また、Mは、遷移金属原子を表わす。

	<u>R(31)</u>	<u>R(32)</u>	<u>R(33)</u>	<u>R(34)</u>	<u>R(35)</u>	<u>M</u>
Q13-1	nC <sub>4</sub> H <sub>9</sub>	H	H	H	H	Ni
Q13-2	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	H	H	C <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	H	Ni
Q13-3	nC <sub>4</sub> H <sub>9</sub>	H	H		benz	Ni

この他、特願昭58-151928号に記載したもの。

## 14) 下記両式で示される化合物



ここに、R(41)、R(42)、R(43)およびR(44)は、それぞれ、水素原子または1仙の基を表わすが、R(41)とR(42)、R(42)とR(43)、R(43)とR(44)は、互いに結合して6員環を形成してもよい。

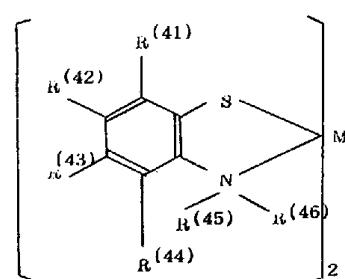
また、R(45)およびR(46)は、水素原子または1仙の基を表わす。

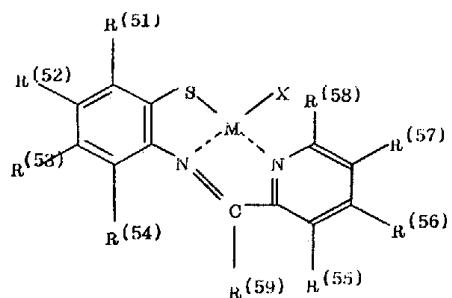
さらに、Mは、遷移金属原子を表わす。

	<u>R(41)</u>	<u>R(42)</u>	<u>R(43)</u>	<u>R(44)</u>	<u>R(45)</u>	<u>R(46)</u>	<u>M</u>
Q14-1	H	H	H	H	H	H	Ni
Q14-2	H	H	C <sub>4</sub> H <sub>7</sub> OOC	H	H	H	Ni

この他、特願昭58-151929号に記載したもの。

## 15) 下記式で示される化合物





ここで、R(51), R(52), R(53), R(54), R(55), R(56), R(57) および R(58) は、それぞれ、水素原子または1価の基を表わすが、

R(51) と R(52), R(52) と R(53), R(53) と R(54), R(55) と R(56), R(56) と R(57) および R(57) と R(58) は、互いに結合して6員環を形成してもよい。

R(59) は、水素原子または置換もしくは非置換のアルキル基もしくはアリール基を表わす。

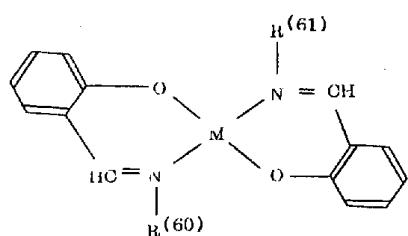
X は、ハロゲンを表わす。

M は、遷移金属原子を表わす。

<u>R(51) R(52)</u>	<u>R(53)</u>	<u>R(54) R(55) R(56) R(57) R(58) R(59) X M</u>
Q15-1	H	nC <sub>4</sub> H <sub>9</sub> H H H H H H H H H H H H H H Ni
Q15-2	H	H nC <sub>4</sub> H <sub>9</sub> OCO H H H H H H H H H H H H H H Ni

この他、特開昭58-153392号で記載したもの。

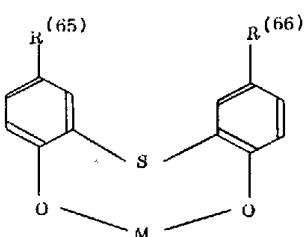
16) 下記式で示されるサリチルアルデヒドオキシム系



ここで、R(60) および R(61) は、アルキル基を表わし、M は、Ni, Co, Cu, Pd, Pt 等の遷移金属原子を表わす。

<u>R(60)</u>	<u>R(61)</u>	<u>M</u>
Q16-1	i-C <sub>3</sub> H <sub>7</sub>	i-C <sub>3</sub> H <sub>7</sub>
Q16-2	(CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub> CH <sub>3</sub>	(CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub> CH <sub>3</sub>
Q16-3	(CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub> CH <sub>3</sub>	(CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub> CH <sub>3</sub>
Q16-4	(CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub> CH <sub>3</sub>	(CH <sub>2</sub> ) <sub>11</sub> CH <sub>3</sub>
Q16-5	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>
Q16-6	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>
Q16-7	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>	C <sub>6</sub> H <sub>5</sub>
Q16-8	NHO <sub>2</sub> H <sub>5</sub>	NHO <sub>2</sub> H <sub>5</sub>
Q16-9	OH	OH

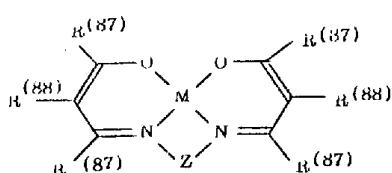
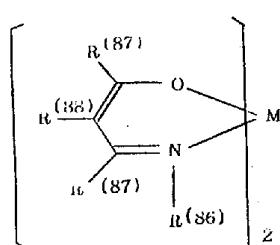
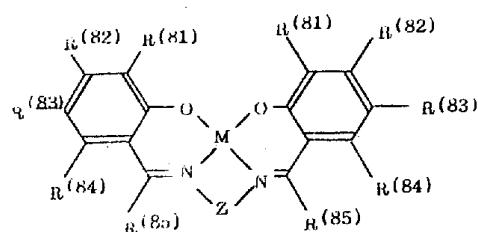
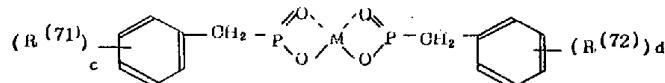
17) 下記式で示されるチオビスフェノレートキレート系



CCCIV, M は前記と同じであり、 R<sup>(65)</sup> および R<sup>(66)</sup> は、アルキル基を表わす。また M は - 電荷をもち、カチオン (Cat) と塩とを形成してもよい。

<u>R<sup>(65)</sup> , R<sup>(66)</sup></u>	<u>M</u>	<u>Cat</u>
Q 17-1	t-C <sub>8</sub> H <sub>17</sub>	Ni <sup>+</sup> NH <sub>3</sub> (C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> )
Q 17-2	t-C <sub>8</sub> H <sub>17</sub>	Co <sup>+</sup> NH <sub>3</sub> (C <sub>4</sub> H <sub>9</sub> )
Q 17-3	t-C <sub>8</sub> H <sub>17</sub>	Ni

18) 下記式で示される亜ホスホン酸キレート系

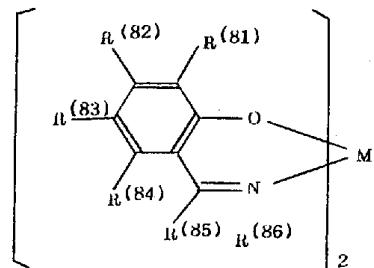


ここIV, M は前記と同じであり、 R<sup>(71)</sup> および R<sup>(72)</sup> は、アルキル基、水酸基等の置換基を表わす。

R<sup>(71)</sup> , R<sup>(72)</sup>

Q 18-1 3-t-O<sub>4</sub>H<sub>9</sub> , 5-t-O<sub>4</sub>H<sub>9</sub> , 6-OH Ni

19) 下記各式で示される化合物



ここIV, R<sup>(81)</sup>, R<sup>(82)</sup>, R<sup>(83)</sup> および R<sup>(84)</sup> は、水素原子または 1 個の基を表わすが、 R<sup>(81)</sup> と R<sup>(82)</sup> , R<sup>(82)</sup> と R<sup>(83)</sup> , R<sup>(83)</sup> と R<sup>(84)</sup> は、互いに結合して、6員環を形成してもよい。

R<sup>(85)</sup> および R<sup>(88)</sup> は、それぞれ、水素原子または置換もしくは非置換のアルキル基もしくはアリール基を表わす。

R<sup>(86)</sup> は、水素原子、水酸基または置換もしくは非置換のアルキル基もしくはアリール基を表わす。

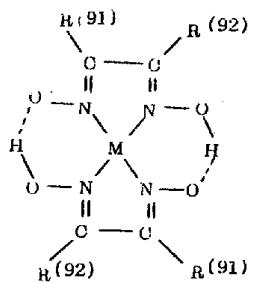
R<sup>(87)</sup> は、置換または非置換のアルキル基またはアリール基を表わす。

Z は、5員または6員の環を形成するのに必要な非金属原子群を表わす。

M は、遷移金属原子を表わす。

この他、特願昭58-153393号に記載したもの。

## 20) 下記式で示される化合物



ここに、R(91) および R(92) は、それぞれ水素原子、置換または非置換のアルキル基、アリール基、アシル基、N-アルキルカルバモイル基、N-アリールカルバモイル基、N-アルキルスルファモイル基、N-アリールスルファモイル基、アルコキシカルボニル基またはアリロキシカルボニル基を表わし、Mは遷移金属原子を表わす。

	<u>R(91)</u>	<u>R(92)</u>	<u>M</u>
Q19-1	H	OH	
Q19-2	H	OH	
Q19-3	tC <sub>4</sub> H <sub>9</sub>	OH	

	<u>Ni</u>	<u>Ni</u>	<u>Ni</u>
	R(86)	R(85)	R(85)
	R(84)	R(84)	R(84)
	R(83)	R(82)	R(81)

この他、特願昭58-155359号に記載したもの。

この他、他のクエンチヤーとしては、下記のようなものがある。

## 21) ベンゾエート系

Q21-1 現存化学物質3-3040 [チヌビン-120 (チバガイギー社製)]

## 22) ヒンダードアミン系

Q22-1 現存化学物質5-3732 [SANOL LS-770 (三共製薬社製)]

これら各クエンチヤーは、色素1モルあたり0.01~1.2モル、特に0.1~1.2モル程度含有される。

なお、クエンチヤーの極大吸収波長は、用いる色素の極大吸収波長以上であることが好

ましい。

これにより、再生劣化はきわめて小さくなる。この場合、両者の差は0か、350nm以下であることが好ましい。

このような記録層を設層するには、一般に常法に従い塗設すればよい。

そして、記録層の厚さは、通常、0.03~10μm程度とされる。

なお、このような記録層には、この他、他の色素や、他のポリマーないしオリゴマー、各種可塑剤、界面活性剤、帯電防止剤、滑剤、難燃剤、安定剤、分散剤、酸化防止剤、そして架橋剤等が含有されていてもよい。

このような記録層を設層するには、通常、基体上に所定の溶媒を用いて塗布、乾燥すればよい。

なお、塗布に用いる溶媒としては、例えばメチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、シクロヘキサン等のケトン系、酢酸ブチル、酢酸エチル、カルビトールアセテート、ブチル

カルビトールアセテート等のエスチル系、メチルセロソルブ、エチルセロソルブ等のエーテル系、ないしトルエン、キシレン等の芳香族系、ジクロロエタン等のハロゲン化アルキル系、アルコール系などを用いればよい。

このような記録層を設層する基体の材質には特に制限はなく、各種樹脂、ガラス、セラミック、金属性等いずれであつてもよいが、書き込み光および読み出し光に対し実質的に透明であることが好ましい。

また、その形状は使用用途に応じ、テープ、ドラム、ペルト等いずれであつてもよい。

なお、基体は、通常、トラツキング用の溝を有する。また、必要に応じ、~~反射層等の~~平面や蓄熱層や光吸収層などを有するものであつてもよい。

また、基体用の樹脂材質としては、ポリメチルメタクリレート、アクリル樹脂、エポキシ樹脂、ポリカーボネート樹脂、ポリサルファン樹脂、ポリエーテルサルファン、メチルペンテンポリマー等の、少々付きをいしめをなし基体が好適である。

#### V 発明の具体的な作用

本発明の媒体は、走行ないし回転下において、記録光をパルス状に照射する。このとき記録層中の色素の発熱により、色素が融解し、ピットが形成される。

このように形成されたピットは、やはり媒体の走行ないし回転下、読み出し光の反射光ないし透過光、特に反射光を検出することにより読み出される。

この場合、記録および読み出しは、基体側から行つても、記録層側から行つてもよいが、基体をとおして行うことが好適である。

そして、一旦記録層に形成したピットを光ないし熱で消去し、再書き込みを行うこともできる。

なお、記録ないし読み出し光としては、半導体レーザー、He-Ne レーザー、Ar レーザー、He-Cd レーザー等を用いることができる。

#### V 発明の具体的な効果

これらの基体には、耐溶剤性、ぬれ性、表面張力、熱伝導度等を改善するために、基体上にプライマーをコーティングすることもできる。

プライマーとしては、例えば、チタン系、シリコン系、アルミ系のカップリング剤や、各種感光性樹脂等を用いることができる。

また、記録層上には、必要に応じ、各種最上層保護層、ハーフミラー層などを設けることができる。ただし、記録層は単層膜とし、反射層を記録層の上または下に積層しないことが好ましい。

本発明の媒体は、このようを基体の一面上に上記の記録層を有するものであつてもよく、その両面に記録層を有するものであつてもよい。

また、基体の一面上に記録層を塗設したものを2つ用い、それらを記録層が向かいあうようにして、所定の間隔をもつて対向させ、それを密閉したりして、ホコリやキズがつかないようになることができる。

本発明によれば、読み出し光による再生劣化がきわめて小さくなる。

そして、耐光性も向上し、明室保存による特性劣化が少ない。

そして、消去および再書き込みを行うようなときにも特性の劣化が少ない。

また、反射層を積層しなくても基体をとおして書き込みと読み出しを行うことができる。

そして、溶解性が良好で、結晶化も少ない。

#### VI 発明の具体的な実施例

以下、本発明の具体的な実施例を示し、本発明をさらに詳細に説明する。

##### 実施例 1

下記表1に示される色素D、樹脂B、クエンチヤーQとを用い、表1に示される割合にて所定の溶媒中に溶解し、直径3.0 cmのアクリルデイスク基板上に、0.07 μmの厚さに塗布設層して、各種媒体をえた。

この場合、表1において、N0は、黒素含量11.5~12.2%，JIS K 6703にもとづく粘度80秒のニトロセルロースである。

さらに、用いた色素は、上記にて例示したもの用いた。

加えて、用いたクエンチヤーは、上記にて例示したもの用いた。

そして、表1には、R/Dの重量比と、Q/Dの重量比とが併記される。

このようにして作成した各媒体につき、1mWのHe-Neレーザー(632nm)読み出し光を1μsec巾、3kHzのパルスとして、静止状態で5分間照射した後の基板裏面側からの反射率の変化(%)を測定した。

これらの結果を表1に示す。

表 1

媒 体 No	色 素 (D) %	樹 脂 (R) %	クエンチヤー (Q) %	R/D (重量比)	Q/D (重量比)	反射率変化 (%)	
						1/5	0
1	D7	NC	-	1/5	0	-5.8	
2	"	"	Q3-8	"	1/2	-4	
3	"	"	Q3-1.5	"	"	-3	
4	D	"	Q3-8	"	"	-5	
5	D11	"	Q3-8	"	2/3	-3	
6	D7	-	Q3-8	-	2/5	-3	

表1に示される結果から、本発明の効果があきらかである。

#### 実施例2

実施例1の媒体No2~6を用い、実施例1と同様に書き込みを行つたのち、赤外線ヒーターを用い、媒体を150°C、15秒間加熱して消去を行つたところ、各媒体とも、くりかえし両回もの消去、再書き込みが良好にできることが確認された。

出 品 人 テイ-ディ-ケイ株式会社

代理人弁理士 石 井 陽 一

第1頁の続き

②発明者	高橋	一夫	東京都中央区日本橋1丁目13番1号 テイーディーケイ株 式会社内
②発明者	黒岩	顯彦	東京都中央区日本橋1丁目13番1号 テイーディーケイ株 式会社内

**PAT-NO:** JP360071294A  
**DOCUMENT-IDENTIFIER:** JP 60071294 A  
**TITLE:** OPTICAL RECORDING MEDIUM  
**PUBN-DATE:** April 23, 1985

**INVENTOR-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
NANBA, NORIYOSHI	
ASAMI, SHIGERU	
AOI, TOSHIKI	
TAKAHASHI, KAZUO	
KUROIWA, AKIHIKO	

**ASSIGNEE-INFORMATION:**

<b>NAME</b>	<b>COUNTRY</b>
TDK CORP	N/A

**APPL-NO:** JP58181367  
**APPL-DATE:** September 29, 1983

**INT-CL (IPC):** B41M005/26 , C09B023/00 ,  
G11B007/24 , G11C013/04

**US-CL-CURRENT:** 430/290

**ABSTRACT:**

**PURPOSE:** To obtain an optical recording medium capable of writing and reading and improved in reproduction deterioration without laminating any

reflective layer, by a method wherein a specified polymethine coloring matter is used in a recording layer, and a quencher is incorporated in the recording layer.

CONSTITUTION: The recording layer comprising a polymethine coloring matter of the formula, wherein each of R1 and R2, which may be bonded to each other to form a condensed ring, is a hydrogen atom, an alkyl group, an aryl group or the like, L is  $-(CH=CH)_n-$  or  $-CH=(CH-CH)_n=$ , n is 1, 2 or 3, A is an aryl group, an alkylamino group or the like when L is  $-(CH=CH)_n-$  and it is a bivalent residue of a nitrogen-containing heterocyclic ring when L is  $-CH=(CH-CH)_n=$ , and, if required, a resin such as a polyolefin and a vinyl chloride copolymer as well as a quencher consisting of a transition metal chelated compound such as an acetylacetonato-chelate, is provided on a base consisting of a resin, a glass or the like.

COPYRIGHT: (C)1985, JPO&Japio